

令和6年度5月期古賀市社会教育委員の会議 議事録

- 【 会議名称 】 令和6年度5月期古賀市社会教育委員の会議
- 【 日 時 】 令和6年5月22日（水） 18時30分～20時00分
- 【 場 所 】 リーパスプラザこが交流館 大会議室
- 【 主な議題 】
- ・社会教育団体への補助金の協議
 - ・第9回生涯学習笑顔のつどいについて
- 【 出席委員 】 井浦議長、角森委員、村山委員、砥上委員、山本委員（以上委員5名）
- 【 欠席委員 】 丸井委員、橋爪委員、石川委員、倉掛委員
- 【 事務局 】 青少年育成課長、職員2名、
- 【 傍聴者数 】 0名

【配布資料】

・レジュメ

・～社会教育団体への補助金の協議～

(1)－①R6 社会教育関係団体補助金一覧

(1)－②PTCA 連合会事業補助金交付要綱

(1)－③古賀市少年の船事業補助金交付要綱

(1)－④古賀市青少年育成事業補助金交付要綱

(1)－⑤古賀市スポーツ奨励補助金交付規則

・生涯学習笑顔のつどい協議について

協議事項

(1)社会教育団体への補助金の協議

(事務局)

資料(1)-① PTCA 連合会事業補助金、スポーツ大会補助金について説明

(井浦議長)

PTCA 連合会から要望は出てないか。

(事務局)

連合会から直接要望は出ていない。

(砥上委員)

申請についてはどこにするのか。

(事務局)

取りまとめをする担当校が毎年変わるが、担当校の教頭先生が各学校の申請を取りまとめて、生涯学習推進課に提出する。申請された書類について、補助金の対象となる内容か審査し、交付金額を決定している。

(砥上委員)

どの学校も PTCA 自体が縮小という方向になっているのが現状である。

(井浦議長)

おそらく会員数の減少などで交付の対象事項が変わる可能性もある。それについては、連合会と生涯学習推進課でしっかり協議していただきながら、運営していただきたい。

(PTCA 加入のニュースについて資料の説明)

(角森委員)

PTCA は予算的には削られることはないのか。実際使われている額が少ないので。

(事務局)

昨年もコロナ明けであまり活動ができていなかったが、来年度も現予算額程度は確保していきたいと思う。

(井浦議長)

古賀市内の小中学校が 11 校あるので、すべての学校が使えば限られた金額になる。組織自体が縮小している分、補助金をうまく使いながら単 P の活動を充実させていけばいいのではないか。

(砥上委員)

PTCA の会費をとらないという意見も出ているので、活動費として補助金を活用できればいいと思う。

(村山委員)

PTCA の予算を使っていないから減らすと考えるのは良くないので、このままでいいと思う。どの学校も講演会などを進んでやって補助金を活用できればいいと思う。

(吉永課長)

資料(1)-①少年の船事業補助金、青少年育成事業補助金について説明

(砥上委員)

私も一昨年、少年の船に乗った。リーダーは高校生が多い。予算の内訳はどのようになっているか。

(吉永課長)

沖縄に 6 日ほど宿泊するので、予算的には宿泊費が多い。年によって行き帰り船のときや、帰りが飛行機のときもある。

(井浦議長)

青少年育成事業補助金として「青少年の主張」作文事業があるが、それだけでなく、例えば少年の船に参加した子に作文発表をしてもらうなど、うまく組み合わせていくことも必要だと思う。

(吉永課長)

どの事業も貢献者がなかなかいないという問題がある。集約できる事業もあるので、今後の課題として検討していきたい。

(2)笑顔のつどいの打ち合わせ

(井浦議長)

テーマの候補となる言葉、文言を出していただきながらテーマ作りができればと考えている。前回に引き続き、みなさんの考えをお聞かせください。

今、ししぶ児童センターで勤務している。今日の午前中にブックスタートという事業があった。乳幼児の保護者が施設利用の登録をしてくださったが、乳幼児室があることをご存じない人が多い。古賀市の良さをPRする方法も考えていく必要がある。

(角森委員)

古賀市にはいろんな団体があるが、本当に支援が必要な人は少ない。「地縁好縁」という言葉がある。「好縁」は好きな物が同じ人がつながるというもの。PTCA や趣味など意思が同じ人のつながりのほうが強い。

(井浦議長)

子どもたちも自分の好きな居場所を求め、いろいろな形の支援がある。補助金の協議にもあったが、少年の船も子どもたちの居場所になっている。

(砥上委員)

少年の船は学校に行きづらい子も参加しており、充実した研修だった。それが学校生活にも結び付けてくれば良いと思う。

(山本委員)

場所がたくさんあって選べるのは良いが、何をしている所なのか分からないので、どんな場所か特徴が分かったほうがいい。また、参加するまでのハードルもあり、自分に関係ないから参加しないという人も多い。団体の特徴を聞いたほうが参加してみようという一歩になる。

(角森委員)

居場所をディスカッションしてもらうときに、例えば少年の船の参加者も一緒に発表してもらえば、参加のハードルも下がるのではないか。

(砥上委員)

少年の船は、事前研修から事後研修もあり、発表の練習もあるので、それを笑顔のつどいの中で見せてもいいと思う。

(井浦議長)

テーマの「居場所」を行事的な居場所と日常的な居場所とに分けて考えてもよいのではないか。行事的な居場所として、少年の船にもう1度発表してもらい、実際に参加した子どもたちに話をしてもらおう。また、日常的な古賀市内の居場所についても紹介する。テーマの書き方も、もう少しやわらかく、いろんな表現の仕方があるので、キーワードを出し合って、みんなで作りに上げていけたらと思う。

(砥上委員)

少年の船が発表するとき、誰を相手にどんなスタンスで参加してもらうのか、考える必要がある。広げるための相手がいれば、宣伝にもなるが、参加者が子どもたちでなければ参加の募集にはならないので、発表者のみの話になってしまう難しさがある。「好縁」という言葉は良いと思う。

(井浦議長)

周知をしたいのか応援に来てもらうか、その辺も課題になってくる。

(村山委員)

昨年と違うのは、昨年は、コロナ渦で活動できなかったところから一歩踏み出した人たちに焦点を当てた。今回は、来た人たちが行動を起こせるよう活動をイメージできる内容にするのはどうか。

(井浦議長)

昔、発表団体のパネル展示をしたこともあった。

事務局とも話して、リーパスカレッジの家庭教育講座の中で笑顔のつどいについて意見を募集するためにアンケートを実施する予定。質問内容は、学校がある日、休みの日の放課後の過ごし方や、子どもたちの居場所、過ごし方についてお気づきの点などの自由記述。保護者の生の声を聞き、今後それを参考にしながら笑顔のつどいについて協議をしていきたいと思う。

●次回開催日程

6月26日(水)18:30～ 会場:302